

〔質疑〕消防費のハザードマップの作成業務委託料について、避難所の地図情報のほかに、災害の意識啓発情報も加えるとのことだが、どのような内容の情報を考えているのか。

〔答弁〕ハザードマップの解説や使い方、土砂災害の種類や前兆現象などを掲載したいと考えている。また、避難のタイミング、避難勧告等の避難情報の伝達方法、災害関連情報の発表基準、避難時の心得、避難非常持出物の内容も掲載したい。さらに、住宅の風水害の対策例などのモデル例も掲載したいと考えている。

〔質疑〕中学校費の南中学校体育館吊り天井の耐震補強工事実施設計等委託料について、これは非構造部分ということだが、他の小中学校の状況はどのようなものなのか。

〔答弁〕吊り天井の体育館は、南中学校だけである。

◎第61号議案・平成26年度白石市下水道事業会計補正予算(第2号)

〔質疑〕公共下水道事業管渠工事は、給食センターが新しくできるため、未整備区間の管渠整備を行うとのことだが、整備沿線の住民の方々に、下水道への接続の依頼を行うようになるのか。

〔答弁〕今回の整備区間は、延長約90メートルとなる。その区間に民家が数軒あり、下水道の有効利用という観点から、できるだけ流入を可能とする方向で検討していきたいと考えている。



予算審査特別委員会の現地調査(南中学校)

討 論

◎第49号議案・平成25年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について

反対 水落 孝子

反対の理由は、経常収支比率が88・1%という財政構造に弾力性を失いつつあるなかで、着実に基金を、特に財政調整基金を年々増やしてきていることに、「なぜ増やせるのか」という疑問があり、これに尽きる。

平成17年からの集中改革プラン策定・実施以来、切れ目なく行財政改革を進め、歳出削減に力を入れてきた結果だと思いが、そのしわ寄せはどこに行ったのか、立ち止まって検証をすることも必要である。

決算審査の中で、市長は、「人が住みやすい白石市」これが課題だと発言した。誰もが同感できるものだが、そのための予算配分をどうされた

賛成 山谷 清

のかが問われるものである。人口減少問題と高齢化社会対策に向けて、今までの市職員適正化計画を見直し、これからどうしても保健師を増やす必要があるのではないかと。地域包括ケアの拠点である地域包括支援センターの充実、今後予想される医療費増への対策にも、白石市で最も高い疾病への予防策を進める。このことで、「出すぎるを制す」ことができるのではないかと。

また、地域包括支援センターの民営化は、保健師の不足で延期になっていたが、正式に民営化を取りやめの決断をすべきである。

子育て施設も含め、福祉分野での雇用を増やすことが、地域経済に還元される力が大きいことも、全国の実践例で示されている。

以上の理由とともに、道理ある住民ニーズ・要求の願いに答えられる財政運営を要望する。

よって第49号議案の認定に反対である。

平成25年度は、白石市東日本大震災復興計画にそって、下水道の不具合を除き、市民生活に支障をきたしていた道路等の復旧が完了した年である。

また、厳しい財政状況のもと、国の施策等を十分に活用した「財政運営」により、基金を積み増すなど、将来への懸念に備えた、堅実な健全財政に努められた決算である。

今回の決算審査特別委員会、特に取り上げられたのが、「不用額」である。

私が議員となった頃は、不用額があれば、「十分に目的が達成されたのか」、または「過分に予算化されたものではないか」。一方、不用額がなければ、「使い切ったのではないか」と先輩議員が質していたことが思い出される。扶助費などは、不測の事態に備えたもので、「不用額」が生じるのは仕方ないものである。